とコミュニティの人たちが次に何をすべきか、何と行政とタイアップすべきなのかということが見えてくるのではないかという事ですね。

【畑村】 日本でね、今言ったこういうことが先に起こりうるというので大成功した例が有珠山の避難の例です。あれは徹底的にやっておかないといけないという事で、そのとおりにやったから、うそみたいに有珠山の時はうまくいっているのです。北大の先生がずっとうるさく言っておられて、とうとうそのとおりにやって、あれは一人も怪我人も出ないで、ほとんど信じられないような事。緊急避難で逃がす時の逃がし方というのがすごいのです。幼稚園でも全部、完璧に。船も鉄道も全て何もかにも待機して、一気に逃げるというのをやった。それは同じ事を、三宅島の噴火の時に東京都はやっているのです。ですから、誰も考えていないのではなくて、きちんと考え始めて、ちゃんとやれて、誰も怪我をしないで、うそみたいにちゃんとうまくいっている例もあるのです。それから有珠山のものは、あれからハザードマップというのをみんなが作るのにすごく有効だという事と、どこにどれだけの危険があるかを先に示すと不安を仰ぐというのと不動産の値段が下がるからいやだというのとそれに対応していないと、行政が怠慢だと叱られるからイヤだという、いろいろな意見があったけれども。この頃になるとそういう物が考えられるのだったら、それをちゃんと示さない事のほうが不作為で怠慢ではないかというふうに少し世の中が変わってきているように思うから、やはり、行政も本当にそこのところになったら、覚悟を決めて、2割の人は文句を言うだろうけど、8割の人がちゃんと賛成しているのだということをきちんと自信を持って始めるべきなのではないかという気がします。僕は2割の人がぐじゃぐじゃ言うと8割の人の犠牲の上にみんな止めてしまうというのが今の日本の社会の悪い所ではないかという気がするから、2割の人にはぐじゃぐじゃ言わせておいて、でも8割が大事なのだからやりますという事で、どこかで覚悟を決めないと次の社会に入っていけないような気がします。

【竹村】 おっしゃるとおりですね。今のお話に関連して私の経験なのですが、社会がそういう事をもう認知してくれているという一つの事例ですけれども、私は近畿の当時は建設省、近畿地建の局長だったのですが、淀川が決壊したら、梅田の方に洪水が押し寄せてきまして、大阪駅前の梅田がポンとつかってしまいまして、バスの屋根がポンと出るくらいのシミュレーションのコンピューターグラフィックを作りました。それを部下が持ってきましたので、すぐに記者発表しろと、こんなの持っていたら駄目だと。もちろん、こんな厳しい条件の厳しい情報というのはすぐに出せというふうに記者発表したのです。部下たちも内心びくびくで記者発表して、そうすると、新聞等にはオフレコになるかもしれませんが、大阪市長から正式に抗議文が来ました。公文書で。私も長い役人生活で市長さんから正式な公文書が来たのは始めてです。要は驚かさないでくれと、無責任だと。人身をかきまわすような事を、そんな記者発表をなぜしたのだという抗議文だった。よしわかったと。その抗議文も記者発表したのです。このように大阪市に怒られました。その時に全新聞社が今度だけは近畿地建がいいと。今まで私はマスコミに褒められたことはないですが、今度は近畿地建がいいと。大阪市が駄目だと。情報は出すべきだと。出してもいいのだと。どんなに厳しい情報でも国民はそれを望んでいるのだと。不動産が下がるとかそういう問題ではないと。僕たちが考えている以上に世の中は非常に成熟しているなということを経験しました。

【畑村】 本当にそう思うのです。阪神の震災の時にボランティアが、あれだけちゃんと自分たちで動いていったというのは、何だろう。誰かに命令されてやっているのではないのです。やはり、今社会が必要としている事があったら、自分はできるところでちゃんとやりにいこうと思う。それにただ、物好きで行ったのかという、そんな事を言っているのがおかしくて。たとえば、会社を休んでいくだとか、行くお金がかかるっていったら奥さんが渋い顔をするとか、もしかしたら渋い顔をするんじゃなくてあんたが代わりに行ってと、行ったのかもしれないとか。そういう事まで考えると一人の人がそこに本当にある時間、きちんとそのために出か